

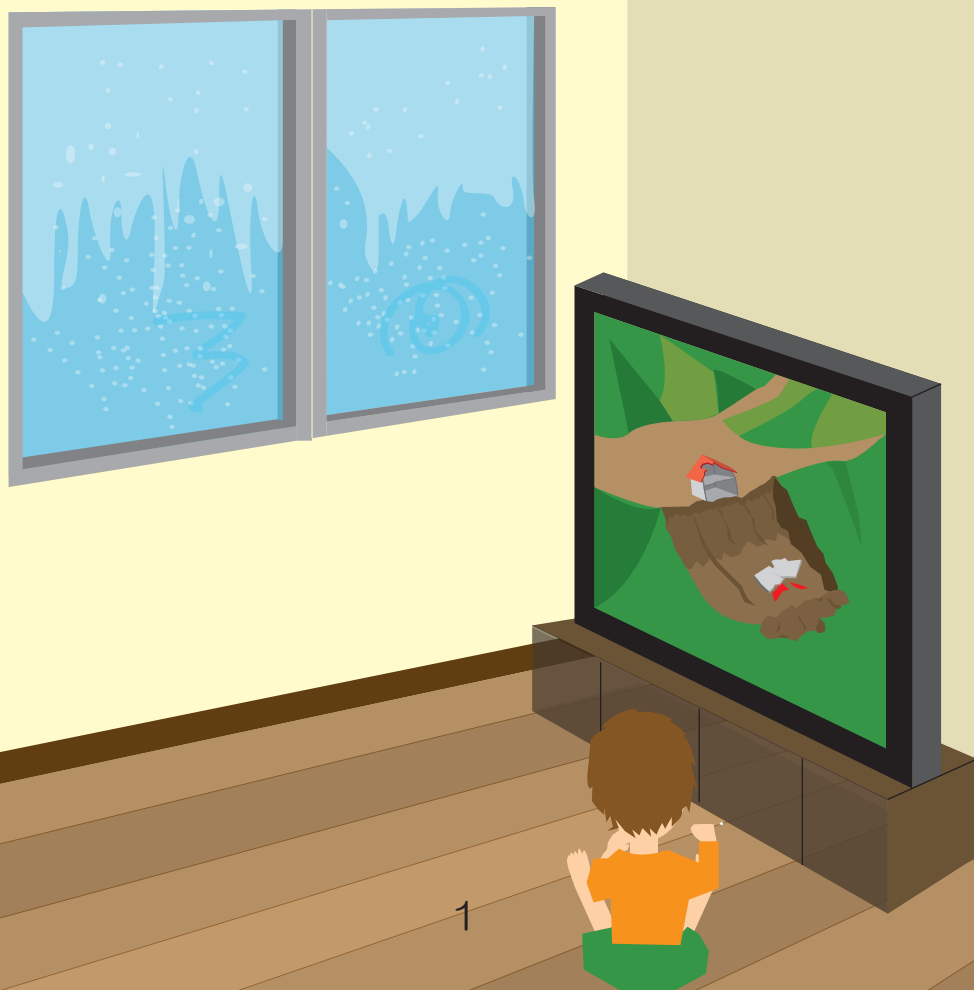
## 登場人物

杉木さん（34歳）、杉木さん妻（31歳）、ゆきじ（6歳）

杉木さん父（60歳）、杉木さん母（62歳）

季節は秋へと移ろい、暑かった夏はどこかへ行こうとしていた。

秋は、台風などの自然災害が多い季節であるが、家族で遊びに来た実家は、今日も朝から雨が降り続き、テレビには、がけ崩れにより崩壊した家屋を映し出していた。



ゆきじ（以下、ゆ）：お父さん、見てみて！家が倒れてるよ

杉木さん（以下、杉）：ホンマやなあ。最近、雨が降り続いてたからなあ。

ゆ：ねえ、おじいちゃんの家もがけの上にあるけど、大丈夫かな？なんか心配になってきた・・・。

杉：う～ん、大丈夫やろ！いや、大丈夫じゃないかな？？そう言われると心配になってきたわ。

じいちゃんとはあちゃんは、この場所の夜景が気に入って家を建てたと聞いたことはあるんやけど、そこまでは多分考えてないと思うなあ。

よっしゃ、お決まりのパターンになってきたけど、市役所行ってくるわ！

ゆ：あっ、じゃあ僕も連れてって～！あれっ、もういないしっ！

ガチャ（ドアを開ける音）

杉木さん母（以下、杉母）：ゆきじ～、お父さんどっか行ったなあ。ばあちゃんも、買い物行ってくるわ！

ゆ：あっ、じゃあ僕も連れてって～！あれっ、もういないしっ！

杉：こんにちは！

職：あっ、杉木さん、今日はなんですか？

杉：いやあ、テレビでがけ崩れの映像見たんやけど、実家も同じような場所やから心配になって聞きに来たんですよ。

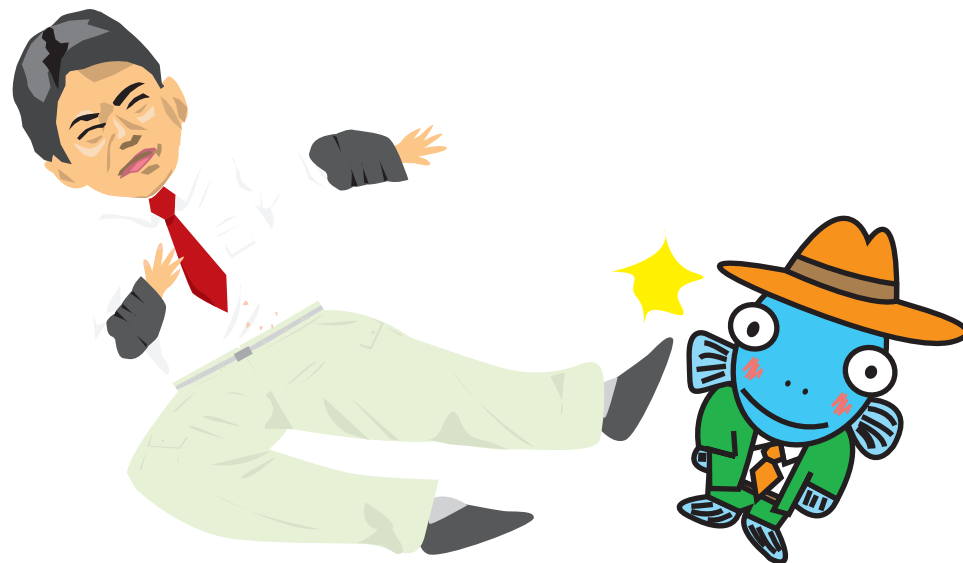
職：場所は？はいはい、アゲハ町ですね。ここは、**宅地造成工事規制区域**というエリアに指定されていますね。

杉：出てきたなあ、呪文！オットくん～。



## 宅地造成工事規制区域！？

はい、任せてちょうオだっ！！



職：ちょっと待ったあ！（職員キ〜ック）  
私も分かりやすく説明できるように努力したから、オットくんはひっこんでください！

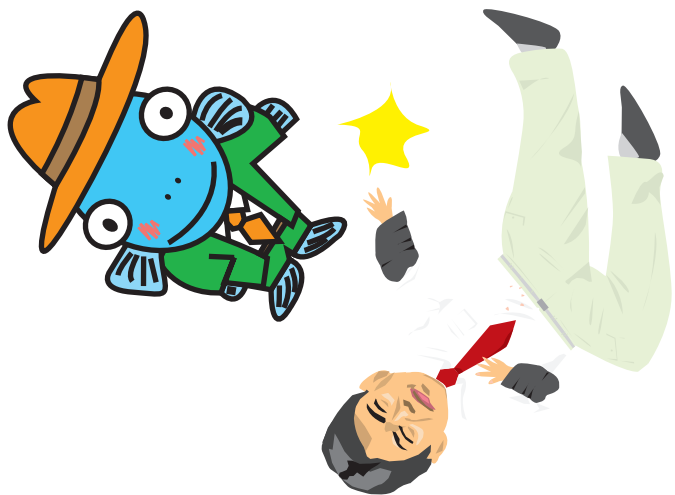
**宅地造成工事規制区域は、宅地工事をするにより、がけ崩れなどの災害が起こる可能性が高い区域として、法律で決められているんです。**

**そして、この区域の中で、宅地工事をする場合は、許可をもらう必要があります。**

**ただ、間違えないでほしいのは、この区域に指定されているから災害が起きて、指定されていないから災害がないということではないですからね。**

杉：おおっ、腕を上げたね！公務員！  
でも、なんでわざわざ区域に指定したり、許可をもらう必要があるの？自分の家を建てるだけなのに。

職：それはですね。（オットくんキック）うわっ～



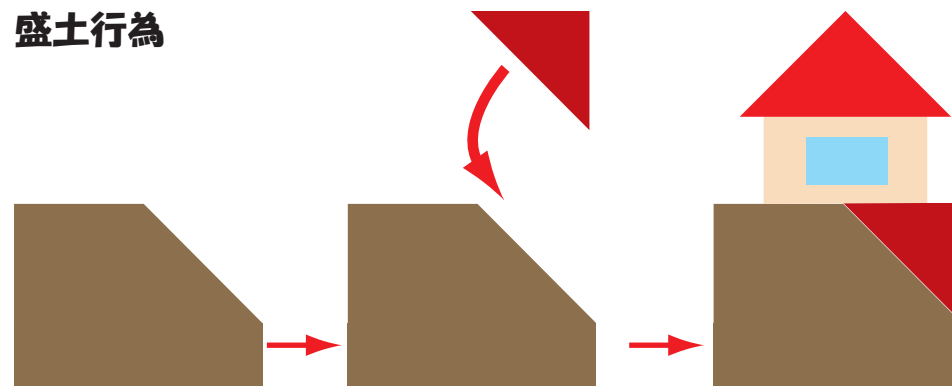
まかせてちょうオだい！（俺の仕事とるな！）  
許可をもらうには、土地の安全を確保するためのルールを守ってもらう必要があります。  
一軒一軒にルールを守ってもらうことが、自分の家を守ったり、周りに迷惑をかけないことにつながるんだ！

杉：周りに迷惑をかけないことは、とっても大事なことやね。で、どんな工事に許可が必要になるの？

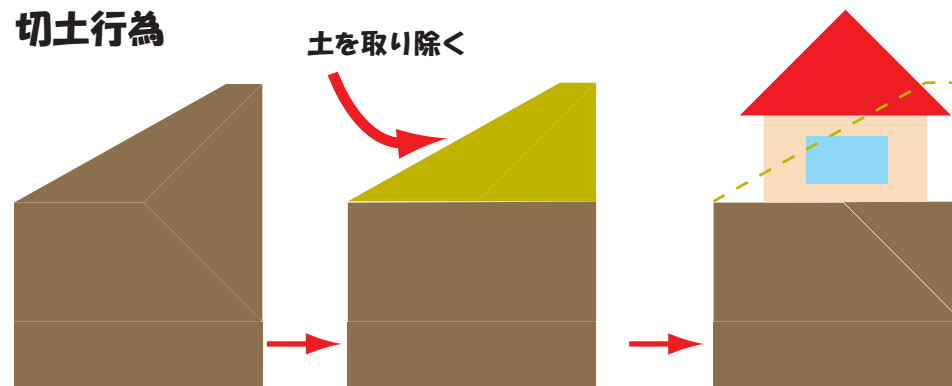
職：代表的な工事としては、斜めになっている土地に土を持ってきて平らにする、通称「**盛土**」という行為。逆に土を取り除いて平らにする、通称「**切土**」という行為ですね。

この行為は、基本中の基本ですので、とりあえず、この区域で宅地工事をする際は、一度なんでも相談してもらったほうがいいですね。

### 盛土行為



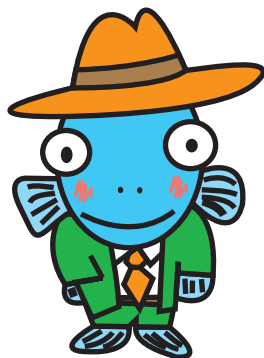
### 切土行為



杉：なるほどねえ。わかった気がする。  
あとさあ、雨が降り続くことと、がけ崩れってどんな関係があるの？当たり前のように思っているけど、いざ説明しろって言われたら、意外と難しいんだよね。

職：雨が降ると土に水が蓄えられるので、土の支える力が弱くなるからなんです。  
詳しくは、オットくん～！

## 土について！！



**まかせてちょウオだい！**

**そもそも土にどんなイメージをもっていますか？**

**土は、空気、水及び砂や粘土などでできていて、土の性質は、水や空気の量、特に水の量で大きく変化するんだ。**

**みんな、子供の頃に砂団子を作ったことがあると思うけど、水を含ませると硬くなり、乾燥すると元の状態に戻ったりしたでしょ？**

**また、陶器などに使われている粘土は、それだけだと固まった状態だけど、水を含ませるとやわらかくなるよね？**

**このように、土の状態は種類や水の影響で大きく変化するんだ。**

**だから、いろいろな条件により変化する土を造成することは、とっても難しいことなんだ。**

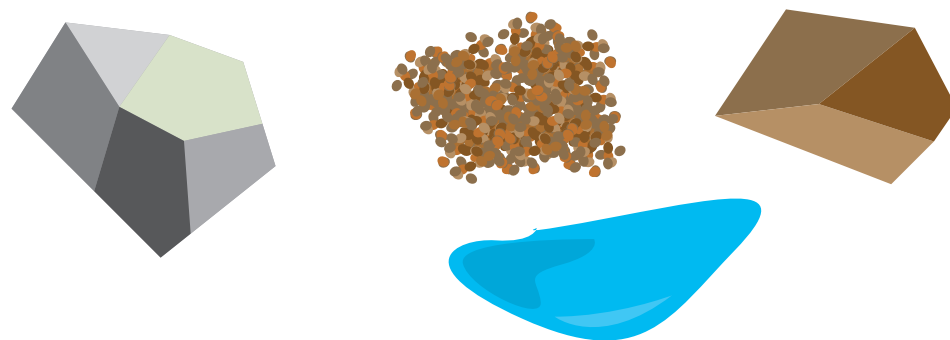
杉：なるほど、奥が深いし、知れば知るほど怖くもなるなあ。うちの両親は、夜景がきれいな場所というだけで、家を買ったから、まったく家や土地のことに関する知識がないし、土のことなんて考えたことがないと思うなあ。  
どうしたら、土が強いとか弱いとかわかるの？

職：そうですね。例えば、家を支える土が、岩と粘土の場合、どちらが強いかはなんとなくわかりますよね？一般的に岩は硬く、粘土は軟らかいですよね。

でも、実際はこれだけでなく、さきほどオットくんが言ったとおり、土の種類や状態により、土の強弱は変わります。

だから、家を建てるするときなどに、土の状態などを専門家に調査してもらい、防災意識を高めることが重要ですね。

杉：そうなんですかあ。じゃあ、両親には、家を建て替えるときには、調べるように伝えておきます。家を支える土について、意識できただけでもいい機会でした。ありがとう！



杉：ただいま

杉母：おかえり。土地について教えてもらいに市役所行ってたんやって。ゆきじから聞いたけど、どうやった？

杉：色々、勉強してきたよ。家を支えている土の難しさとか、大切さについて。この家建て替えるときは、専門家に調べてもらうほうがいいで。

杉父：色々って、ホンマに聞いてきたんか？

杉：いや、まあ、色々と。

杉妻：でも、土地の安全性について、意識できる機会があったのは、いいことでしたね。

杉：そういうこと。ゆきじ、おみやげがあるぞ！これだ！

ゆ：「土や石の図鑑」。お土産ってこれ？

相変わらず、やたら親切だけど、ひとりよがりの父だなあと思うゆきじであった。



一家に一冊、土や石の図鑑！  
この物語の読者にはベストセラー？♪

次回、STORY7 怪傑 指導要綱！！  
乞うご期待♪